

私たちは日々の不条理や苦難に直面するとき、「なぜ私がこんな目に」と過去の原因を詮索し、暗闇に迷い込みがちです。しかし主イエスは、誰もが素通りする「生まれつき目の見えない人」の痛み^{まなざ}に立ち止まり、慈愛の眼差しを注がれました。ここから私たちは、日常を根本から変える三つの恵みへと招かれます。

I. 過去の原因から、未来の目的へ

弟子たちは男の障害を「誰の罪のためか」と因果応報の枠組みで捉えましたが、主イエスはそれをきっぱりと否定し、「**神の業がこの人に現れるため**」（3節）とお答えになりました。主は、私たちの「なぜ(原因)」という後ろ向きの問いを、「何のために(目的)」という神の未来の栄光へと反転させてくださるのです。

II. 人間の理屈を捨て、神に従う

主イエスは土の泥を目に塗り、「**シロアムの池に行って洗いなさい**」（7節）と命じられました。人間の常識やプライドから見れば愚かで不合理に思える命令です。しかし、旧約のナアマン将軍が己の誇りを捨てて癒やされたように、自らの経験や知性を手放し、幼児のように素直に神の言葉に従う従順の中にこそ、奇跡の扉が開かれます。

III. 新しい創造と、世の光としての使命

男が目を洗うと別人のように変えられました。これは洗礼による霊の目の開眼と新しい創造の象徴です。主は「私たちは神の業を行う」（4節）と言われ、私たちをも世の光へと招いておられます。ステンドグラスが太陽の光を透過させて輝くように、私たちもまことの光であるキリストを映し出し、それぞれの日常という「シロアム」へと遣わされ、主の光を証しする使命が与えられているのです。